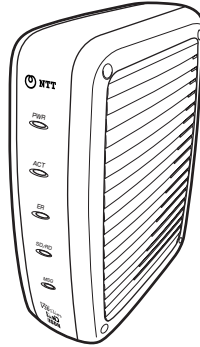

セットを確認してください	24
各部の名前	25
停電になったときのために	27
接続します	29

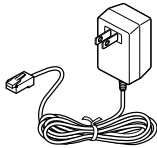
お使いになる前に

セットを確認してください

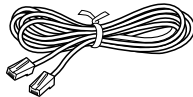
■本体



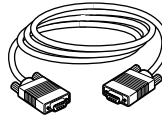
■付属品



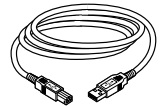
電源アダプタ (1個)



電話機コード (1本:約3 m)



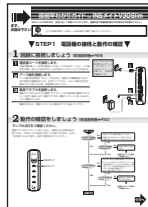
RS-232Cケーブル
(ストレート1本:約1.5 m)



USBケーブル (1本:約1.5 m)



取扱説明書 (1部)



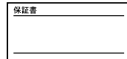
接続早わかりガイド (1部)



サービスガイド (1部)



CD-ROM (1枚)



保証書 (1枚)



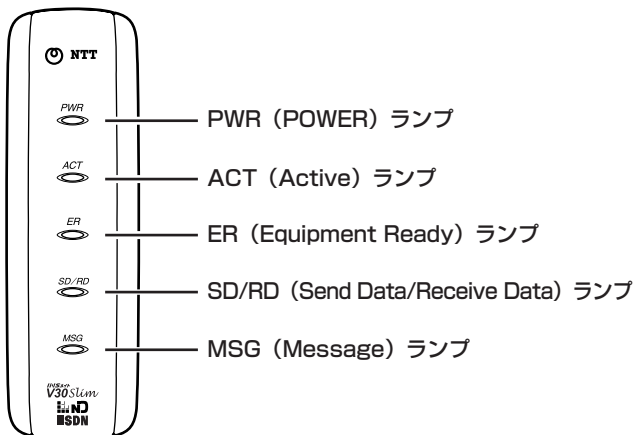
NTT通信機器お取扱
相談センチール(1枚)

専用CD-ROMの使い方 (1部)

- セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

各部の名前

【前面】



【ランプ表示】

ランプの種類	ランプのつき方 (色)	本商品の状態
PWR (POWER) ランプ	点灯 (緑)	電源が入っているとき
	遅い点滅 (緑)	バージョンアップに失敗したとき
	遅い点滅 (赤)	電池動作モードで動作しているとき (●P227)
	消灯	電源が入っていないとき
ACT (Active) ランプ	点灯 (緑)	非同期/同期PPP変換で通信中のとき (●CD-ROM)
	点灯 (赤)	128KマルチリンクPPPで通信中のとき (●CD-ROM)
	速い点滅 (緑)	RS-232CポートまたはUSBポートで発信・着信中のとき
	遅い点滅 (緑)	回線に異常があるとき (●P227)
	点滅と点灯の繰り返し (緑)	着信転送または疑似着信転送を行っているとき (●P166) (ただし、回線異常表示およびデータポート状態表示が優先されます。)
消灯	データポートで通信していないとき、また着信転送・疑似着信転送を行っていないとき	
ER (Equipment Ready) ランプ	点灯 (緑)	接続されているパソコンのER信号がオンのとき (●CD-ROM)
	消灯※	接続されているパソコンのER信号がオフのとき
SD/RD (Send Data/Receive Data) ランプ	点灯 (緑)	パソコンから本商品へデータを転送しているとき
	点灯 (赤)	本商品からパソコンへデータを転送しているとき
	消灯	データ転送を行っていないとき
MSG (Message) ランプ	点灯 (緑)	センタにメッセージがあるとき (Lモード、INSメッセージ到着お知らせサービスをご利用の場合) (●P133、135)
	消灯	センタにメッセージがないとき、またはLモード、INSメッセージ到着お知らせサービスを利用していないとき

※MacintoshでRS-232Cポートをご利用の場合、ER信号制御の設定 (●CD-ROM) を「常時ON」に設定しますが、お使いの変換コネクタまたはケーブルによっては、ERランプが点灯しない場合があります。



ワンポイント

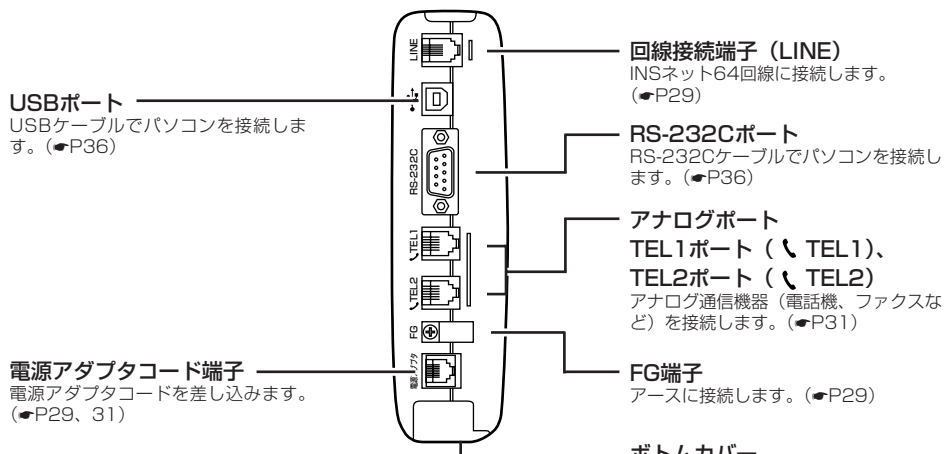
● ランプの点滅のしかたについて

遅い点滅：1秒間に約1回の点滅

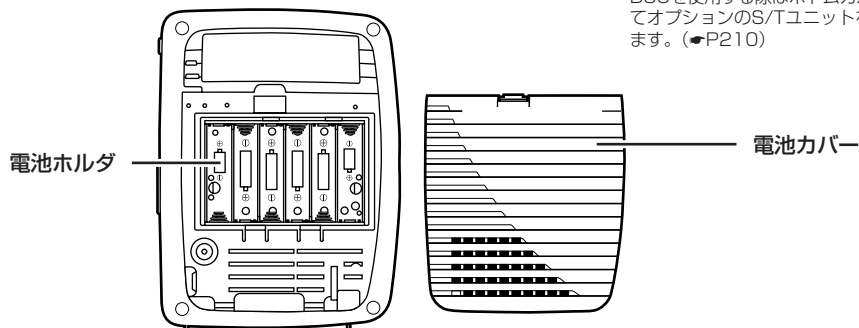
速い点滅：1秒間に約5回の点滅

各部の名前

【背面】



【左側面】



ワンポイント

● RS-232CポートとUSBポートについて

- RS-232Cポートは、モデムやターミナルアダプタなどの周辺機器を接続する標準の規格として、多くのパソコンに装備されています。
- USBポートは、周辺機器を接続するための規格です。Windows Vista[®]、Windows[®] XP、Windows[®] 2000、Mac OS 8.6、9、9.1、9.2およびMac OS Xに対応したパソコンに接続できます。



お知らせ

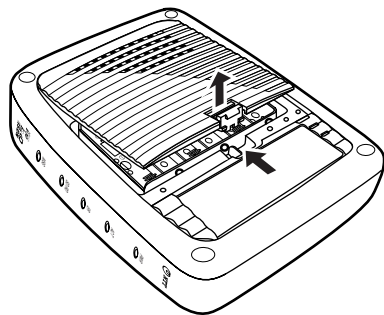
- RS-232CポートとUSBポートを同時に使用することはできません。

停電になったときのために

本商品に市販の単3アルカリ乾電池（6本）を入れておくと、停電時には自動的に電池動作モードに切り替わり、電話をかけたり、データ通信をすることができます。乾電池はお客様でご用意ください。

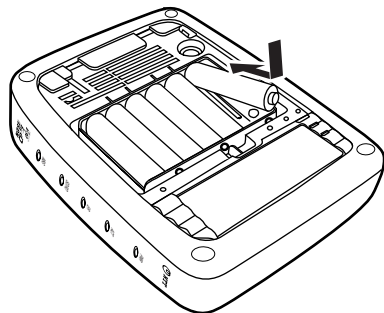
電池動作モード中はPWR（POWER）ランプが赤く点滅し、すべてのポートが使用可能です。

- 1 電池カバーのツメを内側に押し
ながら、持ち上げるようにして
電池カバーを開けます。

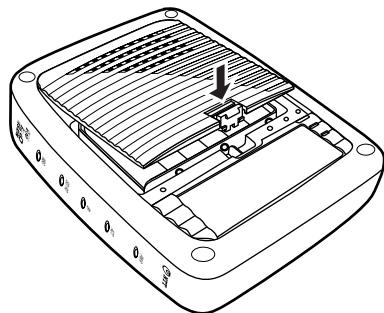


- 2 単3アルカリ乾電池を6本入れます。

乾電池を入れるときは、プラス（+）・マ
イナス（-）の向きを確かめて入れてくだ
さい。



- 3 電池カバーを取り付けます。



(前ページの続きです)

お知らせ

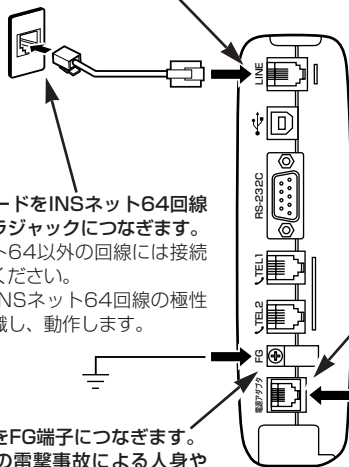
- 新品の乾電池で待ち受け時間約3時間、または1つのアナログポートの通話で通話時間約2時間の動作ができます。乾電池の残量がなくなると、本商品は動作しなくなります。
- パソコンの背面のコンセントなどから本商品の電源をとっている場合は、パソコンの電源を切ると電池動作モードに切り替わり、乾電池が消耗します。電源はパソコンの背面以外のコンセントからとることをおすすめします。
- オプションのS/TユニットのS/T端子にINSネット64用通信機器を接続する場合は、停電時に動作可能な機器をお使いください。
- オプションのS/TユニットのS/T端子やRS-232CポートまたはUSBポートに接続した機器の種類によっては、乾電池の消耗を早めるものがあります。停電時は、必要でない機器を本商品から外してください。

接続します

本商品をINSネット64回線に接続し、電話機やファクス、パソコンなどを接続します。本商品にはDSUが内蔵されていますが、オプションのS/Tユニットをご利用になると、すでにお持ちのDSUをご使用になることもできます。(☛P210)

1 INSネット64回線の接続

- 1** 付属品の電話機コードを回線接続端子 (LINE) につなぎます。



- 2** 電話機コードをINSネット64回線用モジュラジャックにつなぎます。INSネット64以外の回線には接続しないでください。本商品はINSネット64回線の極性を自動認識し、動作します。

- 3** アース線をFG端子につなぎます。落雷などの雷撃事故による人身や装置の損傷を防ぐため、必ず行ってください。
※アース線は、お手元の環境に合った長さのものを、別途お買い求めください。

- 4** 電源アダプタコードを電源アダプタコード端子につなぎます。

- 5** 電源アダプタを電源コンセント (AC100 V、50 Hzまたは60 Hz) に差し込みます。これで電源が入ります。

(次ページへ続きます)



ワンポイント

- すでにお持ちのDSUをご使用になるには (☛P210、215) オプションのS/Tユニットをご利用になると、本商品に内蔵のDSUを使用しないで外付けDSUをお使いにすることができます。

お知らせ

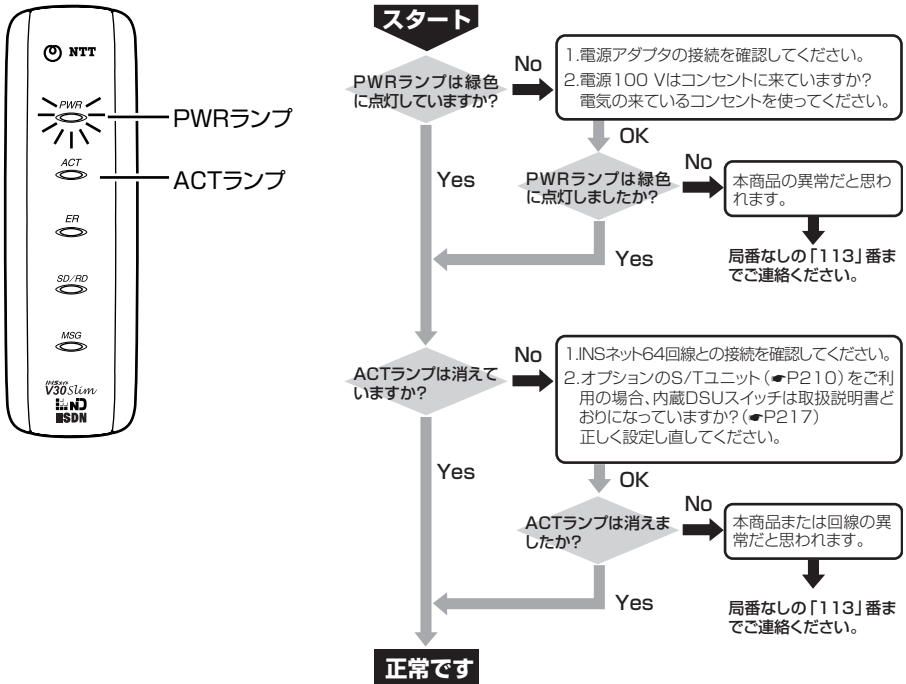
- 電話回線のコンセントがモジュラジャック式でない場合は、工事が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。
- 本商品をご使用にあたって、当社のレンタル電話機がご不要となった場合は、局番なしの116番または当社の営業所等にご連絡いただければ、機器使用料は不要となります。

(前ページの続きです)

2 動作の確認

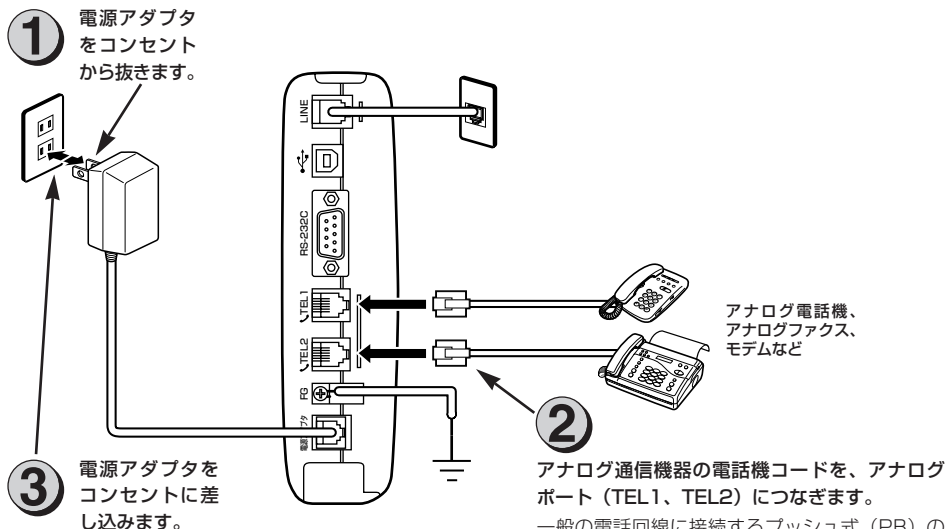
電源アダプタをコンセントに差し込むと、自動的に自己診断を行います。

終了すると、PWR (POWER) ランプだけが緑色に点灯した状態になります。このような状態にならない場合は、右図で原因を見つけてください。



3 電話機などの接続

電話機などの機器を接続する前に、必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。



アナログ通信機器の電話機コードを、アナログポート (TEL1、TEL2) につなぎます。

一般の電話回線に接続するプッシュ式 (PB) のアナログ通信機器 (電話機、ファクスなど) を接続できます。

- **アナログ通信機器を1台のみ接続する場合は**
TEL1ポートに機器を接続し、TEL2ポートは接続機器の設定を「何も接続しない (使用しない)」に設定します。

TELで設定 (ハンドセットを取りあげる → * * * → ② ① ⑧ * ① → # → ハンドセットを置く) (☛P180)

PCで設定 (☛P50、62)

- **ダイヤル式 (DP) のアナログ通信機器をお使いになる場合は**

ダイヤル種別を「DP固定」に設定します。

TELで設定 (☛P182)

PCで設定 (☛CD-ROM)

- **Lモード対応のアナログ通信機器を接続する場合は**

本商品の設定が必要です。(☛P133)

(次ページへ続きます)

(前ページの続きです)



ワンポイント

- 本商品以外のINSネット64用通信機器を接続するには（←P210、216）
オプションのS/Tユニットをご利用になると、本商品以外のターミナルアダプタやINSネット64用通信機器をお使いになることができます。



お知らせ

- (財) 電気通信端末機器審査協会の適合認証を取得しているアナログ通信機器を接続してください。
- 一般の電話回線との仕様の違いにより、お使いいただけないアナログ通信機器もあります。
- 料金管理装置などを接続してご使用になると、通信事業者からの通信料金の請求額とは必ずしも一致しない場合がありますので、ご注意ください。
- アナログポートに接続したアナログ通信機器の受話音量や自分の声が大きく聞こえる場合は、アナログ通信機器のPADを設定してください。アナログ通信機器のPAD設定方法は、アナログ通信機器の取扱説明書などをご覧ください。



お願い

- アナログ通信機器との接続に使用するケーブルの長さは、最長200 m (0.5 φ) を目安としてください。
- 屋外に渡る配線は絶対に行わないでください。雷などによる故障の原因になります。
- 機器の接続に使用するコード類は、機器に付属のものを使うか、接続する機器に適合したものを使用してください。
- 1つのアナログポート（TEL1、TEL2ポート）には1台のアナログ通信機器を接続してください。ブランチ接続はできません。1つのアナログポートに複数の通信機器を接続すると、使用できないことがあります。アナログ通信機器にブランチ接続用の端子がある場合でも、この端子には何も接続しないでください。

4 電話がかけられることの確認

接続した電話機から、電話がかかることを確認します。つながらない場合は、電話機の接続と、電話機のダイヤル種別が「トーン」(プッシュ対応)に切り替わっているかをご確認ください。

- 1 電話機のハンドセットを取りあげ、117(時報サービス)などにダイヤルします。

ダイヤル後は、そのままお待ちください。



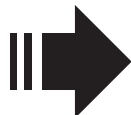
- 2 時報などが聞こえることを確認します。

- 3 ハンドセットを置きます。



お知らせ

- 117番に電話をかけると通話料金がかかります。



- ・ パソコンをお使いの方は引き続き、「パソコン準備編」へ進みます。(●P35)
- ・ パソコンをお使いでない方は「電話／ファクス編」へ進みます。(●P107)

